



500 経営編



経営分析の基本(Ⅱ)

－貸借対照表による安定性分析－

畠山 尚史

「経営分析の基本(Ⅰ)」では財務諸表から経営診断や分析を試みる際の基本的フレームについて述べた。今回は「貸借対照表」による安定性分析に焦点をあてて、診断・分析への適用についてポイントを説明する。

1 「貸借対照表」について

この表は一時点での経営体の財産や財務の状況を示すものである。その適用内容として、経営財務の安定性をみることができると、牧場の資金調達の内容と運営内容がどのようなものかを見ることができると、資産の部では運用状況を、負債・資本の部では調達状況が示されている。

【原則】 資産 = 負債 + 資本

「貸借対照表」(Balance Sheet, B/S)

《資金の運用》 《資金の運用》

資 産	流動資産	流動負債	負債
	固定資産	固定負債	
		繰延資産	資本金
		事業主勘定	
		当期純利益	

(資産項目)

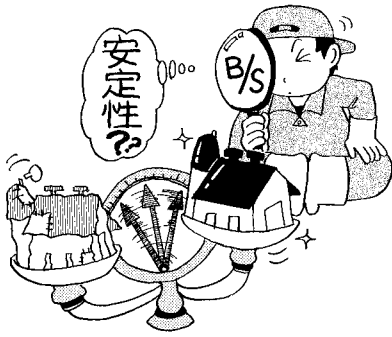
- ・流動資産：一年間以内に資金として利用できる資産。当座資産（現金や預貯金など）と棚卸資産（育成牛や生産資材、さらに堆肥・飼料など貯蔵品）からなる。
- ・固定資産：有形固定資産（乳牛、土地、機械、建物など）と投資資産からなる。有形資産の中には、乳牛、機械、牛舎のように使用することで、価値が減耗される資産（償却資産）がある。そのような固定資産の簿価は取得価格をベースに減価償却した後の残存価額が与えられる。このほか、「繰延資産」があるが、その特質として購入に要した資金を当年の費用に当てることができないものを指す（例えば、土地改良費など）。これは資産の項目に計上されない場合もある。

(負債・資本項目)

- ・流動負債：1年以内に返済しなければならない借入金残高（短期借入金）、買掛金、未払金からなる。
- ・固定負債：1年以上の返済期間がある借入金残高である。
- ・自己資本：返済する必要のない資本であり、資本金、当期純利益、事業主勘定などからなる。「貸借対照表」原則より、資産－負債から算出することができる。

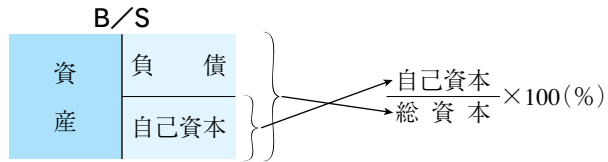
2 安定性の分析指標

ここでは財務の安定性を分析するとき用いるいくつかの指標をあげて、その基本的考え方について述べる。



○自己資本比率

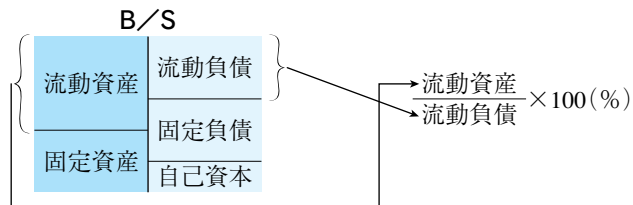
この比率が高いことは経営が健全かつ安定していることを意味している。しかし、100%に近ければ良いということではない。100%近いことは、財務は安定しているが、経営の発展性を考えたとき、自己資本が経営発展の運転資金として、



有効には活用されていないことを意味するからである。{指標値(めやす)60~80%}

○流動比率

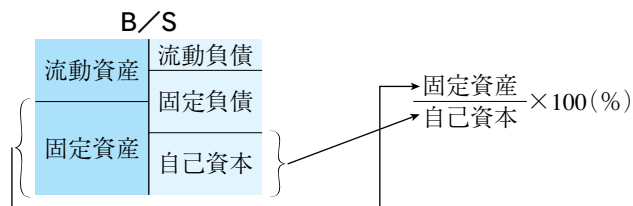
短期で資金化できる流動資産と、同じく短期で返済する負債との比率である。



これは短期借入金の支払返済能力をみるもので、対外信用にも関わる指標である。{指標値(めやす)200%以上}

○固定比率

固定資産と自己資本との比率で表され、固定資産投資の安全性をみる指標である。固定資産は短期間での資金化は難しいことから、この指標より資金繰りの状態もみることができる。例えば、フリーストール牛舎や搾乳ロボットなどの大型



施設投資をした場合、それら投資資産がどれほどの自己資本でまかなわれているのかみることができる。投資した固定資産が自己資本の範囲内であれば問題ないといえる。{指標値(めやす)100%以下}

